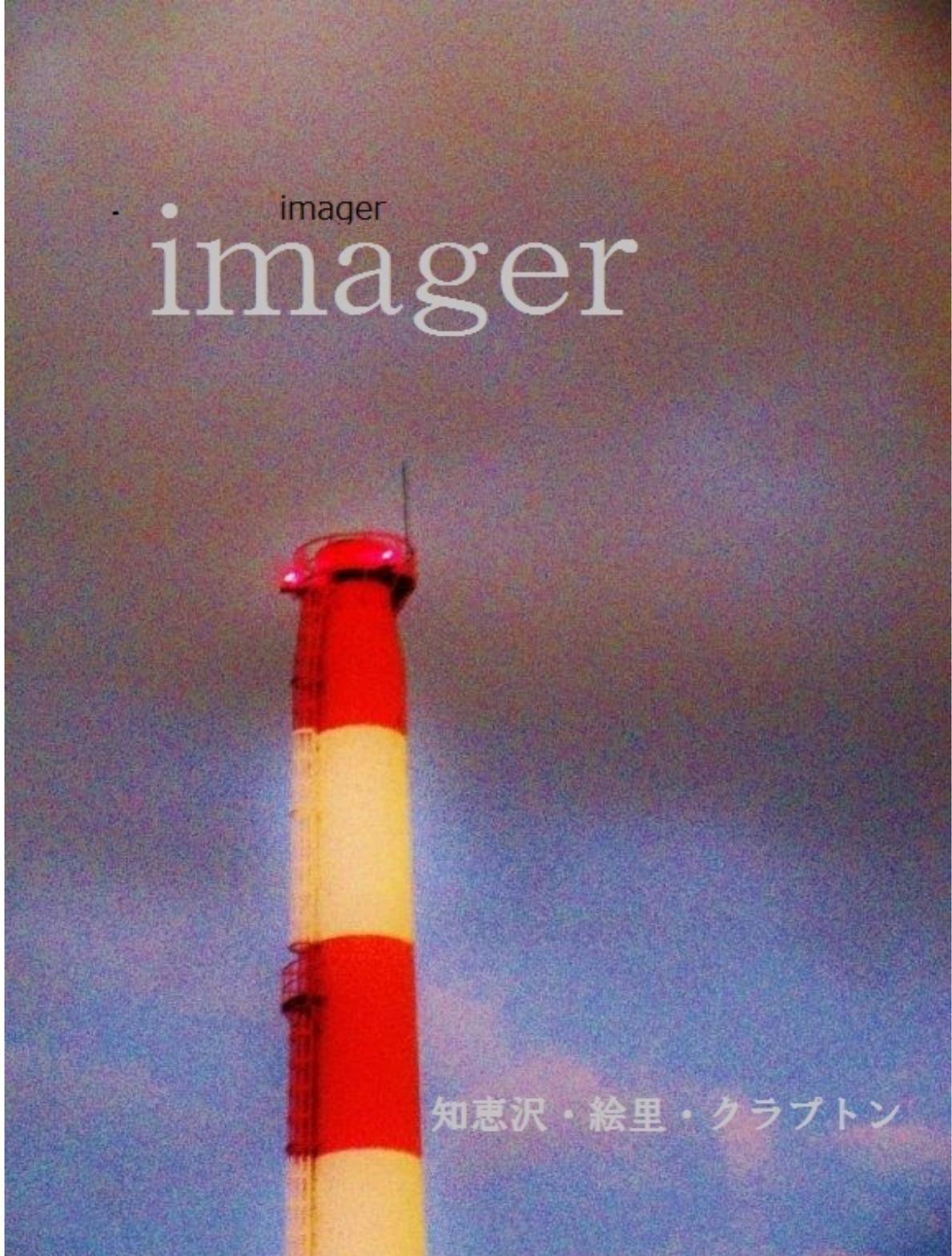


imager
imager

知恵沢・絵里・クラブトン



その匂い、纏わり、縋り、離さない。



SPRING ! TOKYO !



水や空気や太陽の足元にもおよびませんが.....。



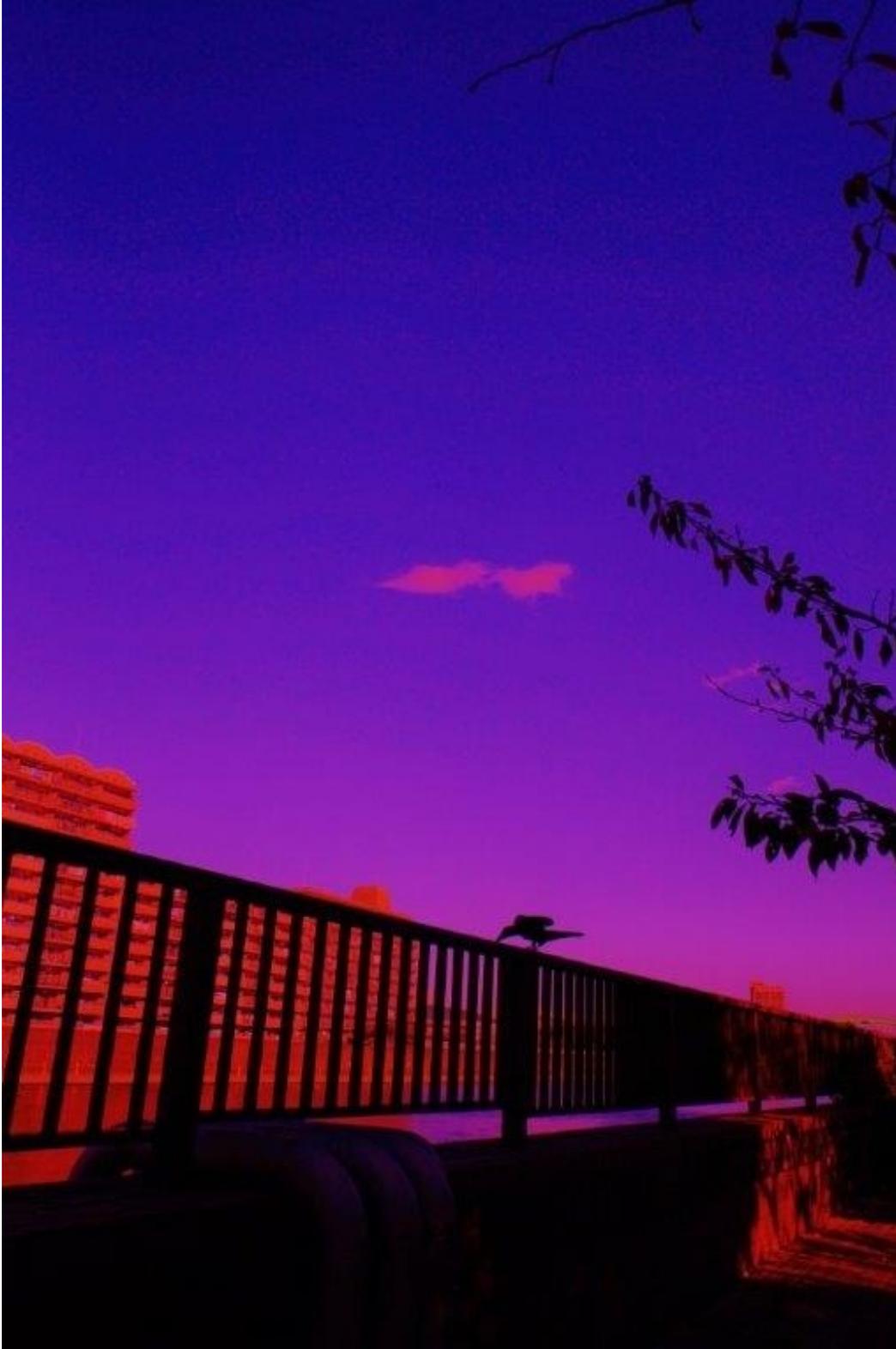
本を読んだら、あの人と話したくなった。



半世紀経っても何も変わらない。そんな嬉しさがある。



チロルを食べた。少し淋しさがいなくなった。



地産地消。はい、エネルギーの話です。



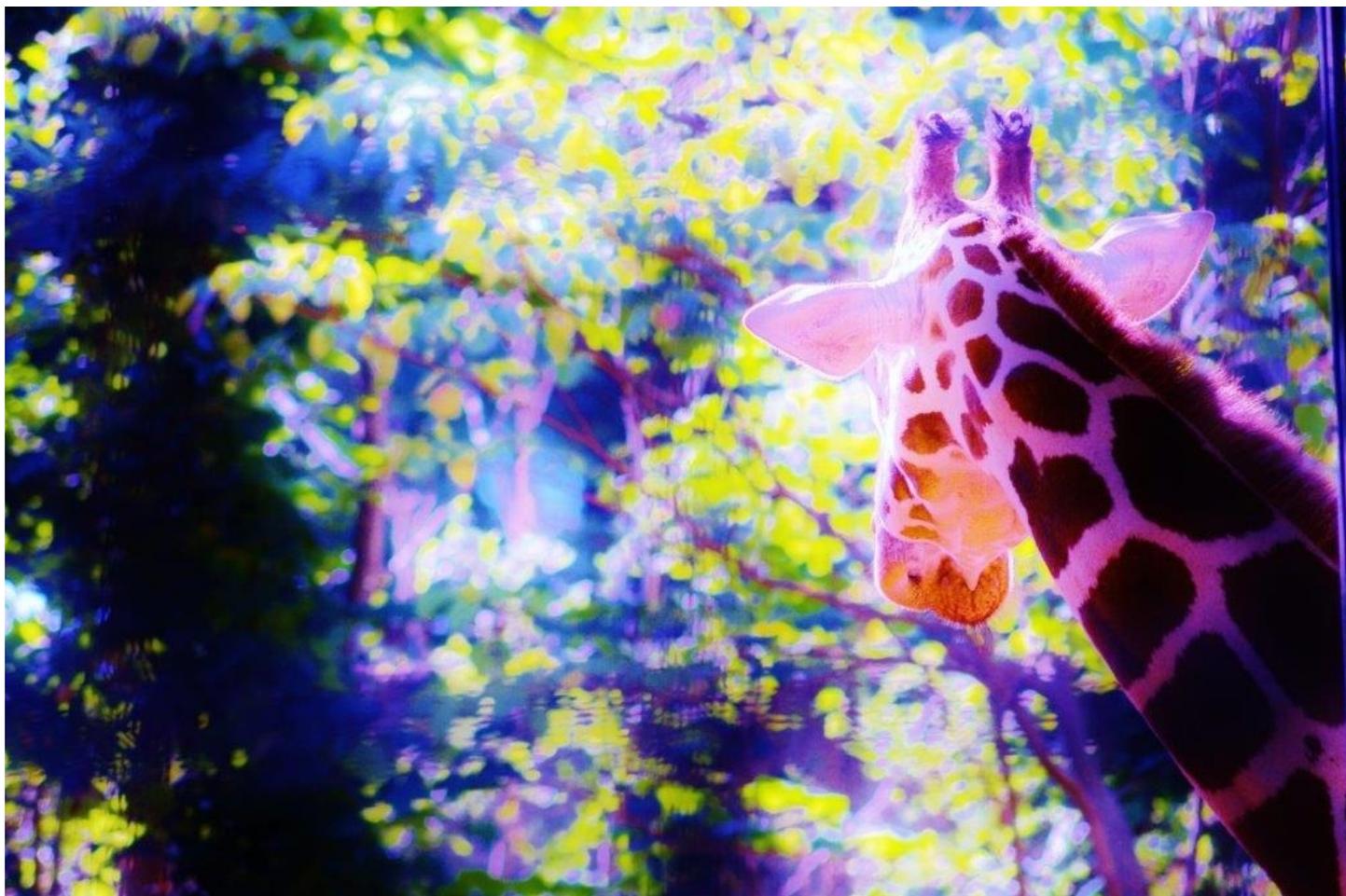
この街では、何気ない風景も物語になる。



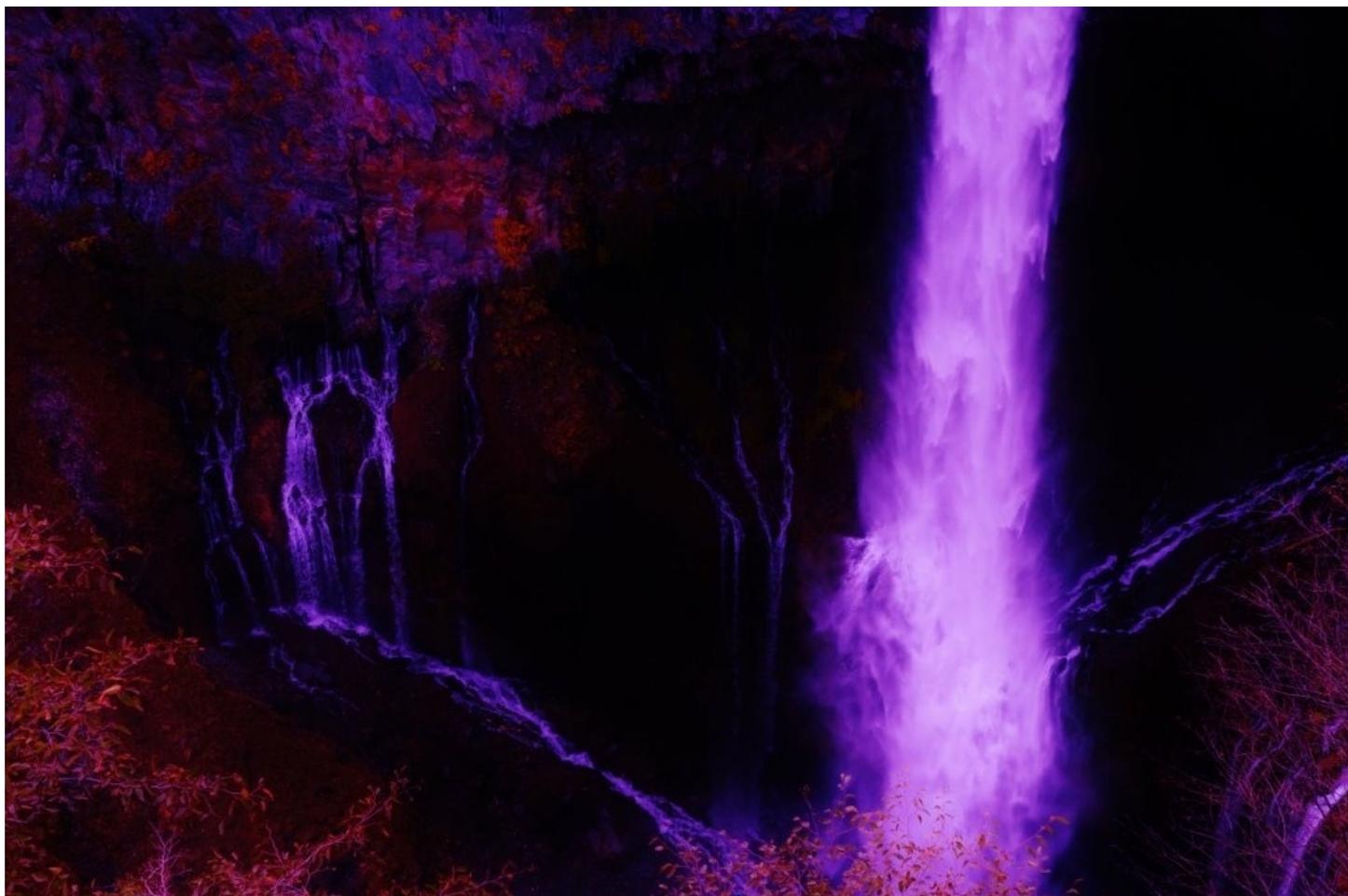
都市に水を届ける。それは文化を育てることでもある。



足るを知る。足らぬを弁える。



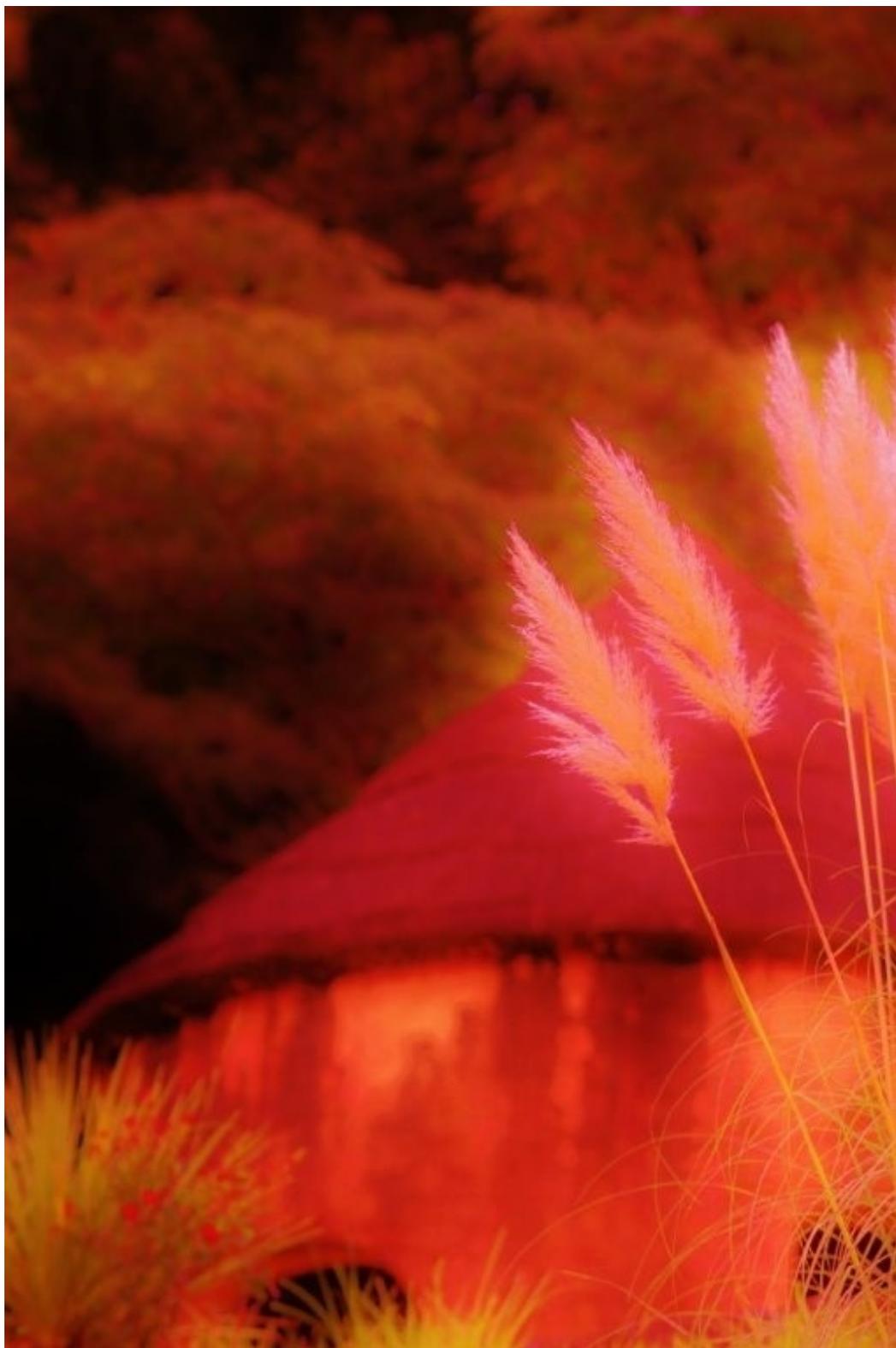
それは、水飛沫の音さえ酌ませる。



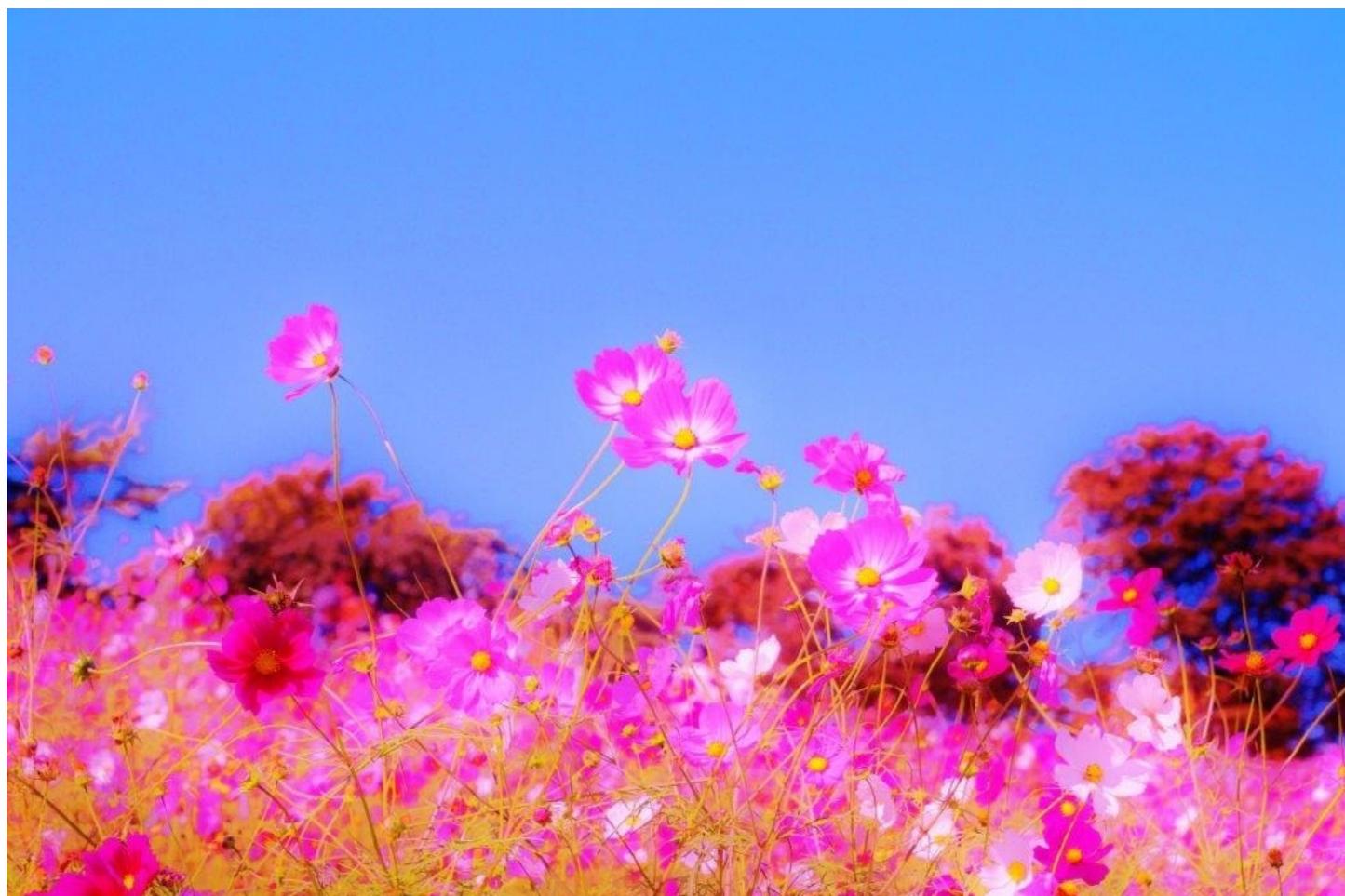
鋭く、ジェントルか？



晩秋が過ぎれば、シチューの季節。



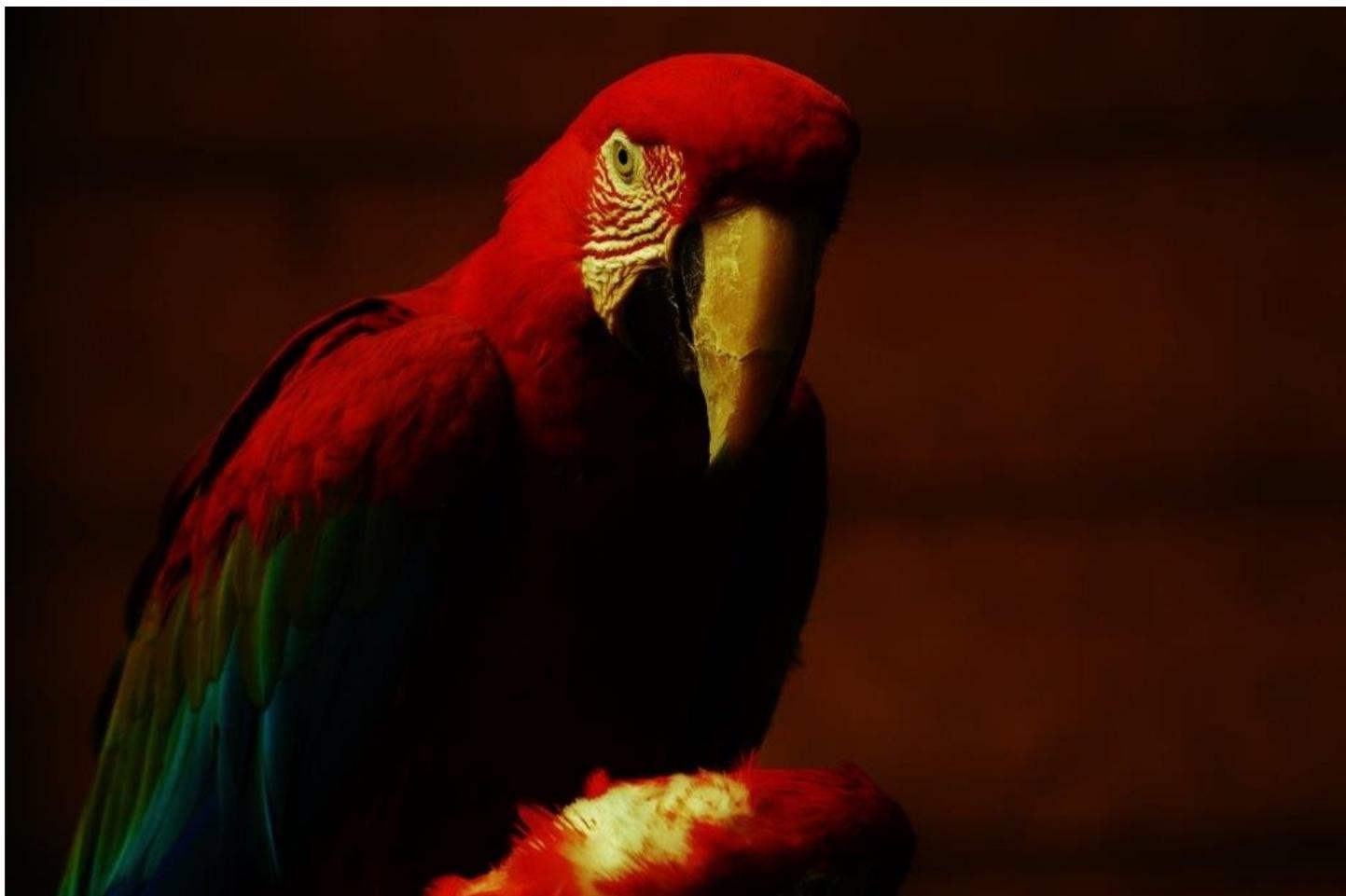
野は萌え、豊穣に沸き、風に安らぐ。達成感を満喫しよう。



浪花は、文化とユーモアが絢爛に融合する街。



私はいろいろな人間を見てきた。だから言う。あなたは、本当は良い人だ。



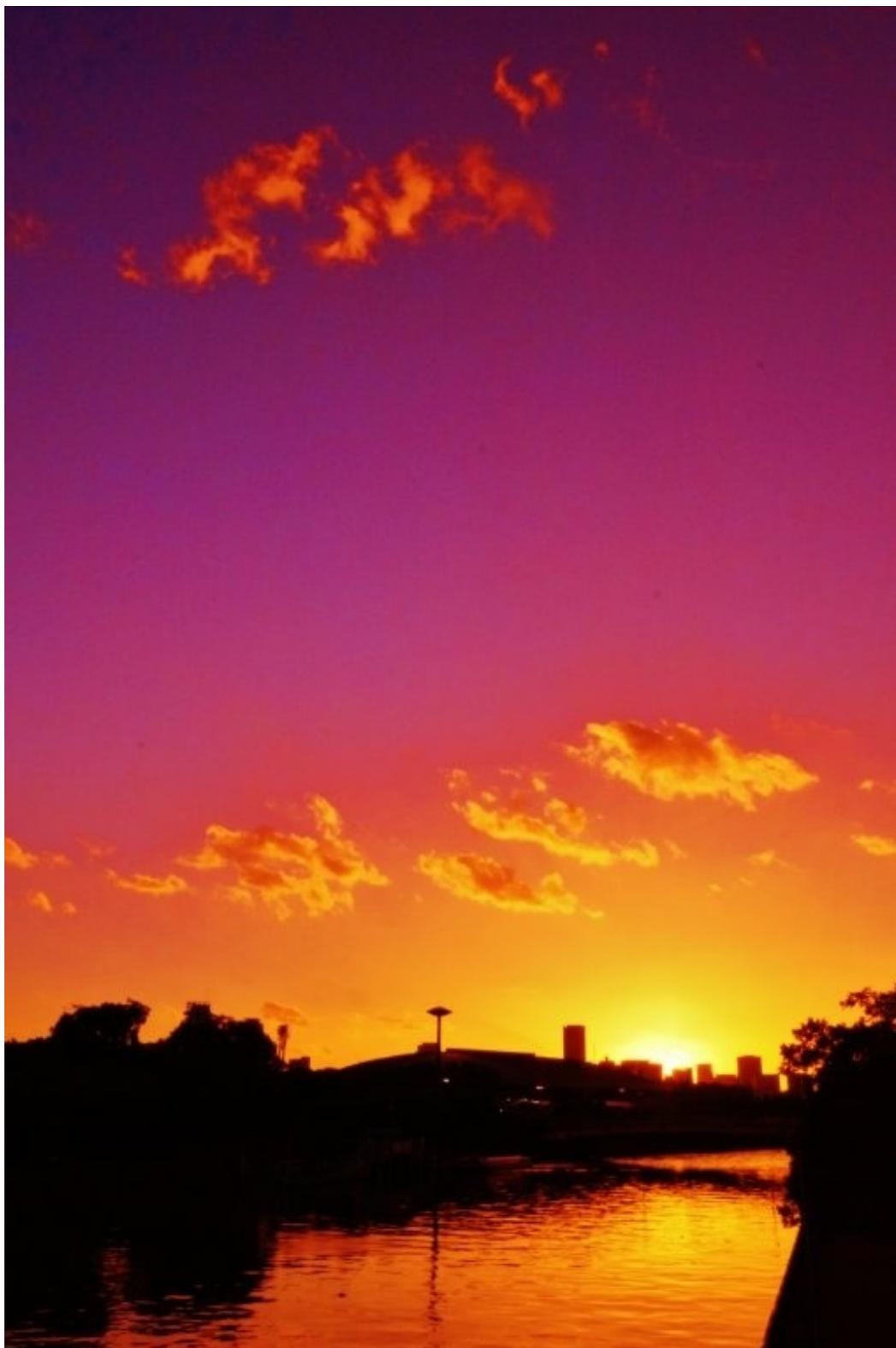
それは都会の風景に負けてはいないか？



都会は渴いている。



黄昏。人恋しくなった。あの人と一杯飲む約束をした。



滅びの美学？ そんな考えだから人様の命も軽んじ、紛争も絶えないのだ。



imager

<http://p.booklog.jp/book/113156>

著者：知恵沢・絵里・クラプトン

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/usnq89428/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/113156>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト